

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

平成29年度技術情報第6号（果樹カメムシ類）について（送付）

このことについて、今後の防除指導の参考にしてください。

平成29年度技術情報第6号

- 1 対象害虫 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
- 2 対象作物 果樹全般
- 3 発生地域 県本土
- 4 発生量 並～多

5 情報の内容

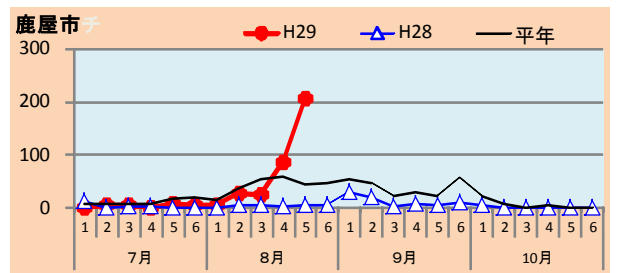
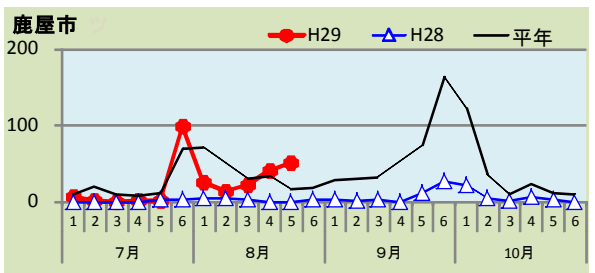
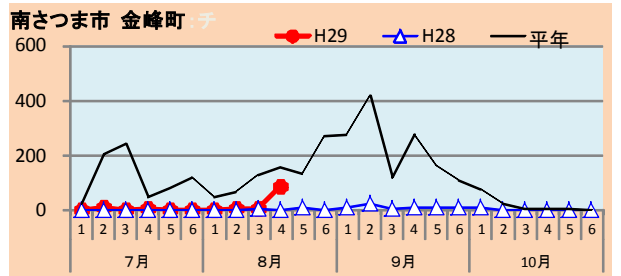
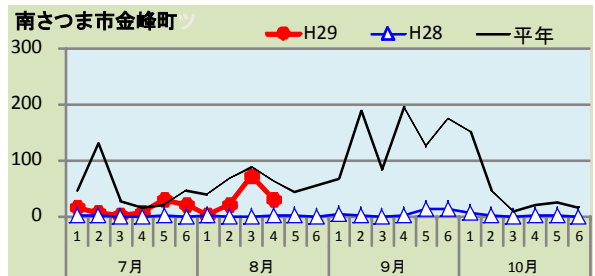
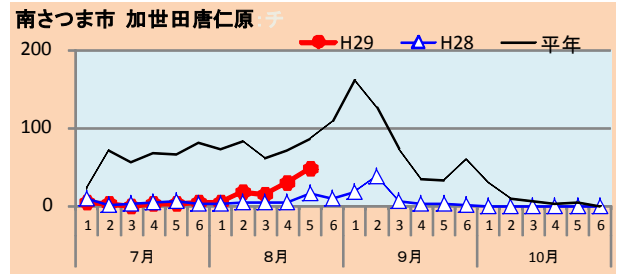
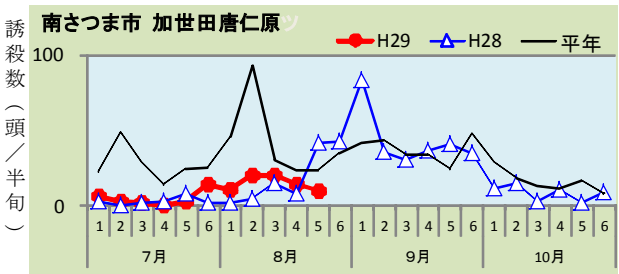
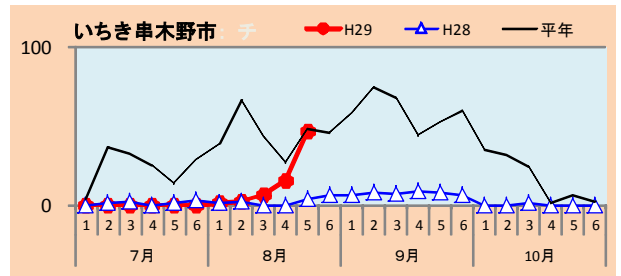
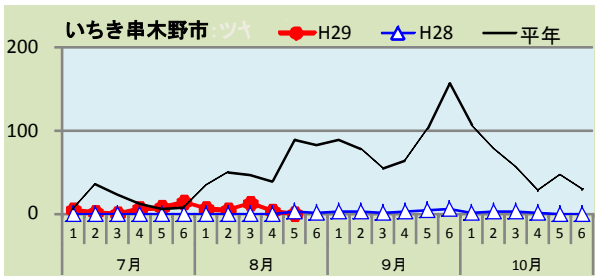
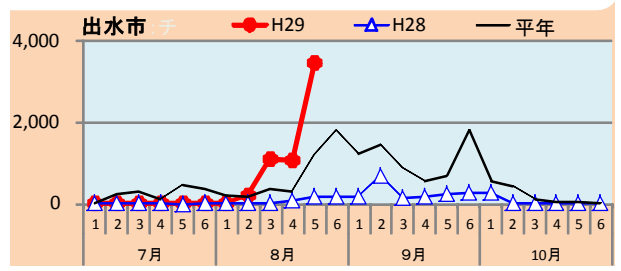
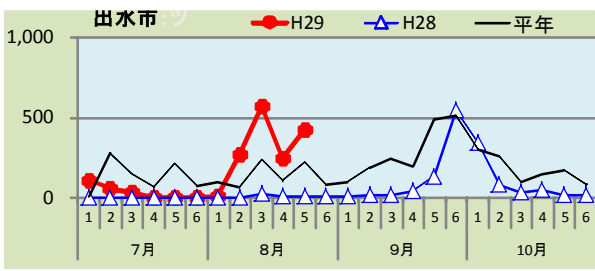
一部地域で果樹カメムシ類の予察灯誘殺虫数が大幅に増加している。また、餌植物（ヒノキ球果）の寄生虫数や加害痕（口針鞘数）も多く、今後、餌植物（ヒノキ・スギ球果）への加害が進み餌として不適になった場合、果樹園へ飛来し被害を及ぼす恐れがある。

6 情報の根拠

- （1）予察灯の8月以降の誘殺虫数が、増加傾向を示している（図1）。特にチャバネアオカメムシは、一部地域（出水市等）では平年を大きく上回り、過去の多発年（注意報発表年H26, H24）と同等レベルの誘殺虫数となっている（データ略）。
- （2）ヒノキでの寄生虫数が増加している（図2）。また、ヒノキ球果の加害痕（口針鞘数）も増加し、一部地域では寄生虫数と加害痕が急増している（図3）。
- （3）過去の多発年と本年とのヒノキでの寄生虫数を比較すると、ツヤアオカメムシの成幼虫は同程度、チャバネアオカメムシの成虫は同程度だが幼虫は少なく推移している（図4）。
- （4）出水市では一部の果樹園への飛来が確認されている。
- （5）本年は餌となるスギ・ヒノキの着果量が多い。

7 防除上注意すべき事項

- （1）果樹カメムシ類の飛来は地域間差、ほ場間差があるため、こまめに園内外をよく見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。特に、収穫期に近い樹種では注意する。
- （2）飛来を認めた場合、一回目の防除は残効の長い合成ピレスロイド系薬剤またはネオニコチノイド系薬剤を選択する。合成ピレスロイド系薬剤は、ミカンハダニの発生を助長するので、散布後の発生に注意する。
- （3）防除にあたっては、防除薬剤の使用回数や使用時期を厳守する。



ツヤアオカメムシ

チャバネアオカメムシ

図1 予察灯での果樹カメムシ類の誘殺虫数の推移

注) 平年：南さつま市金峰町、鹿屋市：過去10年間の平均値、他は過去6年間。

捕虫方法：南さつま市金峰町100w水銀灯、鹿屋市 捕虫用蛍光灯と白色蛍光灯（20W）を併設、他は40W捕虫灯

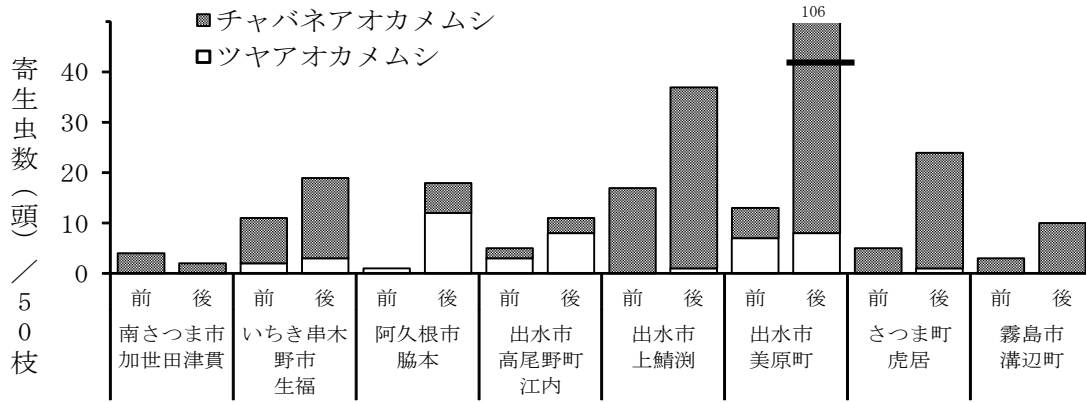


図2 ヒノキの果樹カメムシ類の寄生虫数（8月前期・後期調査）
注）調査は、前期（8月2～8日）、後期（8月17～24日）。寄生虫数は、2種の成虫・幼虫の合計。

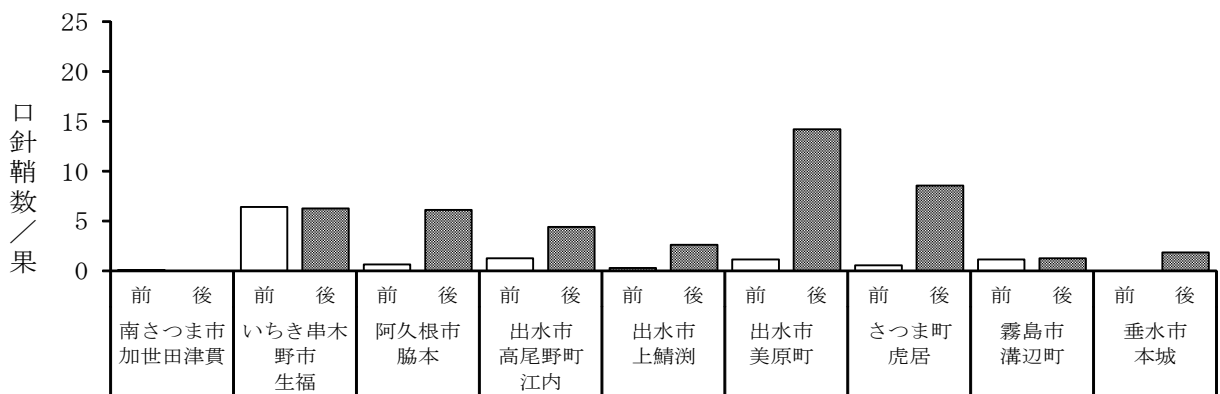
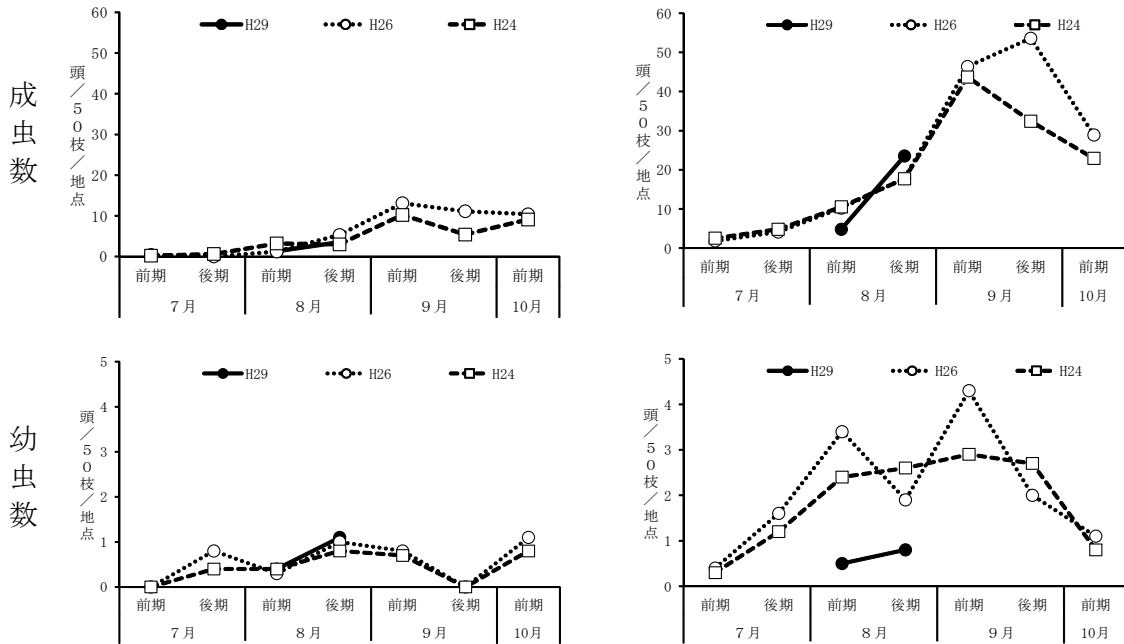


図3 果樹カメムシ類によるヒノキ球果の加害痕数（口針鞘数）（8月前期・後期調査）

注）ヒノキ球果の採取は、前期（8月2～8日）、後期（8月17～24日）。垂水市は前期未調査。
ヒノキ球果の加害（吸汁）が進むと加害痕（口針鞘）が増加し、餌として不適になる。



ツヤアオカメムシ

チャバネアオカメムシ

図4 多発年と本年の果樹カメムシ類の餌植物（ヒノキ）での寄生虫数

注）多発年（H26, H24）は注意報発表年。データは各調査地点の平均値。